

山田 秀 教授略歴・業績目録

略 歴

- 一九五五年（昭和三〇年）八月 鹿児島市にて出生
- 一九七九年（昭和五四年）三月 九州大学法学部卒業
- 一九七九年（昭和五四年）四月 九州大学大学院法学研究科修士課程（基礎法学専攻）入学
- 一九八一年（昭和五六年）三月 同上修了（法学修士）
- 一九八一年（昭和五六年）四月 九州大学大学院法学研究科博士課程（基礎法学専攻）入学
- 一九八二年（昭和五七年）三月 南山大学研究生（一九八五年三月）
- 一九八二年（昭和五七年）九月 ドイツ連邦共和国ヴェストファーレン・ヴィルヘルム（ミュンスター）大学カトリック神学部キリスト教社会科学研究所留学 Studium am Institut für die Christlichen Sozialwissenschaften an der Katholisch-Theologischen Fakultät der Westfälischen Wilhelms-Universität zu Münster (bis März 1984).
- 一九八五年（昭和六〇年）三月 九州大学大学院法学研究科博士課程（基礎法学専攻）単位取得退学
- 一九八五年（昭和六〇年）四月 九州大学法学部助手（比較憲制論）採用（一九八六年三月）
- 一九八六年（昭和六一年）三月 法学博士（法博甲第七号、九州大学）「ヨハネス・メスナーの自然法論」（博士号請求論文、二〇〇字×九六七頁（未公刊）による）。

- 一九八六年（昭和六一年）四月 南山大学社会倫理研究所（法学部）講師採用
- 一九九一年（平成三年）四月 南山大学社会倫理研究所（法学部）助教授昇格
- 一九九四年（平成六年）九月 オーストリア共和国ウィーン大学カトリック神学部客員教授 Gasprofessor an der Katholisch-Theologischen Fakultät der Universität Wien (bis Juli 1995). その間、演習担当（1995SS）.
- 二〇〇〇年（平成一二年）四月 南山大学社会倫理研究所（法学部）教授昇格
- 二〇〇八年（平成二〇年）四月 熊本大学教授法学部
- 二〇一七年（平成二九年）四月 熊本大学教授大学院人文社会科学研究所に異動、教授大学院社会科学研究所研究科及び教授法学部に併任。
- 二〇一九年（令和元年）四月 附属図書館長に併任。国立大学法人熊本大学教育研究評議会評議員に併任。文書館館長を兼務。

学会活動

- 九州法学会
- 日本法哲学会
- 経済社会学会 二〇〇二年以降
- Johannes Messner Gesellschaft seit 1995
- Europäische Arbeitsgemeinschaft Mut zur Ethik seit 1998

著作目録

【著書】

- 1 *Zur Naturrechtslehre von Johannes Messner und ihrer Reception in Japan*, Herold-Verlag Wien 1996, 68S.
- 2 『ヨハネス・メスナーの自然法思想』(xxii + 三五六頁)、成文堂、二〇一四年三月二〇日
- 3 『人間と社会―自然法研究―』(xiv + 四七五頁)、成文堂、二〇一九年六月一五日
- 4 『自然法と私―我が半生を反省する―』(三四頁) (『知の技法の伝承』シリーズ16)、熊本大学大学院社会文化科学教育部FD研究会編、ホープ印刷株式会社、二〇二二年一月二六日

【論文】

- (1) 「ヨハネス・メスナーの自然法論」、一九八二年一〇月、『九大法学』44、七三一―一四頁
- (2) 「倫理的真理について―伝統的自然法論の立場から―」、一九八六年一〇月、『法哲学と社会哲学』法哲学年報、有斐閣、一〇八一―一七頁 (『ヨハネス・メスナーの自然法思想』に所収)
- (3) 「ヨハネス・メスナーの良心論―良心の構造と機能をめぐって―」、『自然法―反省と展望』、水波朗、稲垣良典、ホセ・ヨンパルト編集、創文社一九八七年三月、一五七―一八六頁 (『ヨハネス・メスナーの自然法思想』に所収)
- (4) 「著作権についての覚書―習慣論の立場から―」一九八八年九月三〇日、『南山大学社会倫理研究所論集』(4)、一三一―三二頁
- (5) 「補論 現行著作権法の一側面―アンケート質問項目に係わる現行著作権法注解―」、一九八九年三月、『著

- 作権問題と調査』、一二八―一三九頁
- (6) 「自然法論的認識論―メスナー自然法論の一貢献―」、『法と国家の基礎にあるもの』、阿南成一、三島淑臣ほか編著、一九八九年一月一日、創文社、二六九―三〇八頁
- (7) 「『百周年回勅』の今日的意義―法哲学的観点から―(1)」、一九九二年三月三〇日、『社会倫理研究』第1号、一二一―一五三頁(『人間と社会―自然法研究―』に所収)
- (8) 「『百周年回勅』の今日的意義―法哲学的観点から―(2)」、一九九三年三月三〇日、『社会倫理研究』第2号、九五―一二七頁(『人間と社会―自然法研究―』に所収)
- (9) 「メスナー自然法論の思想的境界」、一九九三年三月、『南山法学』第16巻第3・4合併号、九九―一二四頁(『ヨハネス・メスナーの自然法思想』に所収)
- (10) 「共同善、社会、国家―トミスマの観点から―」、一九九三年三月、『法政研究』第59巻第3・4合併号、三二七―三八〇頁(『人間と社会―自然法研究―』に所収)
- (11) 「孟子の倫理思想とメスナーの良心論―自然法と実践知に就いての一比較試論―」、『自然法と実践知』、阿南成一、三島淑臣ほか編著、一九九四年八月三〇日、創文社、一三九―一三〇一頁
- (12) 「カトリック社会理論における自然法の意義」、一九九六年三月三〇日、『社会倫理研究』第4号、一一二―一頁
- (13) 「自然法論的人間論―統合的人間論形成への途上にて―」、一九九七年三月、『南山法学』第20巻第3・4合併号、三七―四六頁
- (14) 「自然法と共同善―メスナー自然法論の一側面―」、一九九七年一〇月、『多文化時代と法秩序』法哲学年報、

一三七—一四六頁

- (15) 「発展する共同善と正義―動態的自然法論の一素描―」、一九九八年三月、『社会と倫理』第5号、二八—四一頁
- (16) 「カトリック社会理論の現代的意義―出会いとその発展相及び射程について―」、一九九八年六月、『現代社会とキリスト教社会論』南山社会倫理研究叢書第3巻、一八二—二〇一頁
- (17) 「伝統的自然法論における自然法と自然法則」、一九九八年一月一〇日、『法思想における伝統と現在』、九州大学出版会、一八四—一九五頁（『ヨハネス・メスナーの自然法思想』に所収）
- (18) „Gemeinwohl und Gerechtigkeit in der Entwicklung, auf der Suche nach einer integralen Lehre vom Menschen“, in: R. Weiler u. A. Mizunami (Hrsg.) *Gerechtigkeit in der sozialen Ordnung*, Duncker & Humblot, Berlin 1999, 167S. (S.45-55.)
- (19) „Kultur als Gemeinwohl und Gemeinwohl als Kultur“, in: Verein zur Förderung der Psychologischen Menschenkenntnis (Hrsg.) *Bonum commune - Ethik in Gesellschaft und Politik*. Zürich 1999, 630S. (S.45-51), Rudolf Weiler, Lothar Roos, u.a.m.
- (20) 「生命への畏敬と教育の根源―林竹二博士の人と教育哲学―」、一九九九年二月、『社会と倫理』第6号、一四—一五七頁（『人間と社会―自然法研究―』に所収）
- (21) „Philosophische Überlegungen über die Menschenrechte“, in: Rudolf Weiler (Hrsg.) *Völkerrechtsordnung und Völkerrechtsethik*. Duncker & Humblot, Berlin 2000, 192S. (S.125-135).
- (22) 「コメント 政治、社会、倫理―法哲学の立場から―」、二〇〇〇年七月、『社会と倫理』第9号、八二—

八六頁

- (23) 「孟子における『共同善』思想―共同善、民本主義、人間本性に即して―」『自然法と宗教Ⅱ』、阿南成一、三島淑臣ほか編著、二〇〇一年六月、創文社、一三一―一五七頁
- (24) 「自然法と家族―シンポジウム「家族と世代間倫理」コメント―」、二〇〇一年七月、『社会と倫理』第11・12合併号、六五―七一頁
- (25) 「政治倫理の新しい展開―国民国家と共同善を中心に―」、二〇〇二年六月、『社会と倫理』第13号、一七三―一八三頁
- (26) „Für eine Kulturethik im 21. Jahrhundert“, in : Rudolf Weiler (Hrsg.) *Wirtschaften- ein sittliches Gebot im Verständnis von Johannes Messner*. Duncker & Humblot, Berlin 2003, 208S. (S.61-73),
- (27) 「政治倫理学についての一考察―その学問的ないし体系的な位置付けと構造に即して―」、二〇〇三年七月、『自由と正義の法理念』、成文堂、四四三―四六五頁
- (28) 「共同善―伝統的自然法論ないし社会倫理学におけるその概念と機能をめぐって―」、二〇〇四年一月一日、経済社会学会編『経済社会学会年報』XXVI、現代書館 六七―七九頁
- (29) 「抽象 abstractio 理論についての管見―秋葉先生のご報告に接して―」、二〇〇四年二月二〇日、『社会と倫理』第17号、六一―六六頁
- (30) „Rechtsethik von Krieg und Frieden im Blick auf Pacem in Terris“, in *ETHICA 2004. Jahrbuch des Instituts für Religion und Frieden*, Institut für Religion und Frieden beim Militärbischofsamt, Wien 2004, S.63-68.
- (31) 「ヨハネス・メスナーの生涯と著作」、二〇〇五年七月三〇日、『社会と倫理』第18号、七五―一二三頁（『ヨ

- ハネス・メスナーの自然法思想』に所収)
- (32) 「妊娠中絶についての自然法論的考察―秋葉・伊佐(松尾) 論争に寄せて―」、二〇〇五年一月一日、『法の理論』24、成文堂、一一九―一四六頁
- (33) 「ロールズ正義論と伝統的自然法論」、二〇〇六年五月一〇日、『社会と倫理』第19号、五九―七二頁
- (34) 「人間の尊厳についての自然法論的考察―ノイマン論文をめぐって―」、二〇〇六年五月一〇日、『社会と倫理』第19号、一三三―一四二頁
- (35) 「共同善と補完性原理―伝統的自然法論の立場から―」、二〇〇六年二月一五日、『社会と倫理』第20号、九五―一二六頁(『人間と社会―自然法研究―』に所収)
- (36) 「ヨハネス・メスナー自然法思想の基本特徴―晩年の著作を中心に―」、二〇〇七年一月二二日、九州法学会編『九州法学会会報2006年』、四六―五一頁
- (37) 「伝統的自然法論の精華―ヨハネス・メスナー晩年の著作を中心に―」、二〇〇七年六月二〇日、『社会と倫理』第21号、七七―一一頁(『ヨハネス・メスナーの自然法思想』に所収)
- (38) 「善さ』を志向する人間本性―村井実博士の自然法論的教育思想―」、二〇〇七年九月一日、『南山法学』第31巻 第1・2合併号、四九―八四頁
- (39) „Mensch und Naturrecht in Entwicklung aus Sicht eines japanischen Naturrechtlers“, in: Rudolf Weiler (Hrsg.) *Mensch und Naturrecht in Evolution*, Wien 2008, 262S. (S.109-137), Rudolf Weiler, Anton Rauscher, Lothar Roos, u. a. m.
- (40) 「『保護する責任』と自然法―序論的検討―」、二〇〇八年九月、『社会と倫理』第22号、八六―九七頁

- (41) 「批判的合理主義と伝統的自然法論―カール・ポパーとヨハネス・メスナーに寄せて―(1)」、二〇〇九年三月、『熊本法学』第116号、二四七―二七四頁
- (42) 「人間本性と自然法における恒存的なもの」と可変的なもの」、二〇一〇年三月、熊本大学法学部創立30周年記念『法と政策をめぐる現代の変容』、一八一―二二七頁
- (43) 「人間本性と人権についての哲学的考察」、二〇一一年三月、『熊本法学』第122号、七三―九七頁
- (44) 「ヴィーン自然法論並びに生命倫理学について」、二〇一一年三月、『科学研究費報告書(ドイツ応用倫理学の総合的研究―人間の尊厳)概念の明確化を目指して―/基盤研究(A)/課題番号19202001/平成19―22年度/研究代表者・加藤泰史』(平成二三年三月)一八七―一九八頁
- (45) „Philosophische Überlegungen über die Menschenrechte und Menschenwürde“, in *Zeit-Fragen* 20. Dezember 2011, 19. Jahrgang, Nr.51, S.1-3. (『人間と社会―自然法研究―』に所収)
- (45) ** Réflexions philosophiques sur les droits humains et la dignité humaine, en *Horizons et débats: Journal favorisant la pensée indépendante, l'éthique et la responsabilité pour le respect et la promotion du droit international, du droit humanitaire et des droits humains*, No51, 28 décembre 2011, pp.1-5.
- (45) ** Philosophical reflections on human rights and human dignity, in: *Current Concerns* No.1, 15 January 2012, Zurich.
- (46) 研究ノート「原理主義についての原理的・批判的考察」、二〇一二年三月、『熊本法学』第125号、一一―二〇頁
- (47) 「メスナー自然法思想の方法の問題―倫理学の課題と方法―」、二〇一三年三月、『熊本法学』第127号、二〇七―二四〇頁(『ヨハネス・メスナーの自然法思想』に所収)

- (48) 「孟子、共同善、洞見知」、二〇一四年八月二八日、『熊本法学』第131号、一一—一三〇頁（『人間と社会—自然法研究—』に所収）
- (49) „Der Mensch als Familienwesen in der Naturrechtslehre und in der personalen Psychologie. In tiefer Verbundenheit zum Gedenken an Frau Dr. Annemarie Buchholz-Kaiser“, in *Zeit-Fragen*, 23. September 2014, 23. Jahrgang, Nr.23/24, S.8-9.（『人間と社会—自然法研究—』に所収）
- (49) * L'être humain en tant qu'être familial selon le droit naturel et la psychologie personaliste. En accord profond et en souvenir d'Annemarie Buchholz-Kaiser, en *Horizons et débats*: Journal favorisant la pensée indépendante, l'éthique et la responsabilité pour le respect et la promotion du droit international, du droit humanitaire et des droits humains, N° 23/24, 29 septembre 2014, pp.1-3. (<http://www.horizons-et-debats.ch/index.php?id=4399>)
- (49) ** Homo familiaris – human beings and their families according to natural law and personalist psychology. In commemoration of Dr Annemarie Buchholz-Kaiser, in *Current Concerns. English Edition of Zeit-Fragen* (The international journal for independent thought, ethical standards, moral responsibility, and for the promotion and respect of public international law, human rights and humanitarian law), 5 October 2014, No 23/34, pp.14-16. (<http://www.currentconcerns.ch/index.php?id=2845>)
- (50) 自由論題報告（要旨）「伝統的自然法論について」、二〇一五年九月、経済社会学会編『経済社会学会年報』XXXVII、現代書館 一三八—一四〇頁
- (51) 「メスナーの伝統的自然法論」、二〇一五年二月、『社会と倫理』第30号、一〇五—一二五頁
- (52) 「家族、国家、共同善—経験科学と自然法論の架橋の試み—」、二〇一五年十二月、『熊本法学』第135号、

一一九九頁（『人間と社会—自然法研究—』に所収）

(53) 「幸福の経済社会学」を考えるために—ヨハネス・メスナーに依拠して—、二〇一六年九月、経済社会学会編『経済社会学会年報』XXVIII、現代書館 四七—五六頁（『人間と社会—自然法研究—』に所収）

(54) 「メスナー自然法思想の理解のために—河見誠教授の書評への応答—」、二〇一七年三月、竹下賢・長谷川晃・酒匂一郎・河見誠編集『法の理論35』、成文堂、二四七—二六四頁

(55) 「シーゲル福音宣教学読解の試み—主著『福音と現代』に即して自然法の観点から—」、二〇二〇年一二月、『マイケル・シーゲル先生追悼冊子』南山大学社会倫理研究所、五二—七五頁

【翻 訳】

1 ヘルベルト・シャンベック著「国家の使命・可能性・限界」、一九八五年九月、『法の理論5』、成文堂、二七一—四二頁

2 ローター・シュナイダー著「労働と復活—それらの相互関係を求めて—」、一九八七年三月三十一日、『南山大学社会倫理研究所論集』第3号、一二七—一四一頁

3 ヘルベルト・シャンベック著「基本権の意味と目的について—ヨーロッパ立憲国家理解のための一貢献—」、一九八九年一月、『法と国家の基礎にあるもの』、創文社、三二五—三四二頁

4 ヴォルフガング・シュミッツ著「制度倫理学と共同善」、一九九七年三月、『変動する世界における共同善』、一一—四一頁

5 ヘルベルト・シャンベック著「多元的民主主義における共同善と憲法」、一九九七年三月、『変動する世界にお

- ける共同善』、九三―一〇三頁
- 6 O. ヘッフエ、K. デマー、A. ホラーバツハ著「自然法」(ゲレス協会編『国家事典』所収)、一九九八年三月、『社会と倫理』第5号、一〇一―一二三頁
- 7 アントン・ラウシヤ著「人格性、連帯、補完性」、二〇〇〇年七月一五日、『社会と倫理』第9号、一五六―一五六頁
- 8 ヨハネス・メスナー著「社会秩序の大憲章―『レーラム・ノヴァールム』90周年―」、単訳、二〇〇一年一月一五日、『社会と倫理』第10号、一七七―一八九頁
- 9 ヘルベルト・シャンベック著「ヨハネス・メスナーとその法・国家論」、二〇〇二年六月、『社会と倫理』第13号、一―一七頁
- 10 ルードルフ・ヴァイラー著「社会的ヒューマニズム」、二〇〇二年六月、『社会と倫理』第13号、一八―二五頁
- 11 ベルンハルト・ズートル著「危機に立つ共同善―政治的苛立ちと改革の必要―」、二〇〇三年七月、『社会と倫理』第15号、一四一―一五三頁
- 12 アルトゥル・ウッツ著「カトリック社会理論とは何か」、二〇〇四年二月、『社会と倫理』第16号、七二―八五頁
- 13 ギュンター・ペルトナー著「生命の不可侵性―自己決定の限界―」、二〇〇四年二月、『社会と倫理』第17号、一七一―一八〇頁
- 14 エンリケ・H・プラート著「自己決定への疑問―自殺する権利とか望んでいるから殺害してもらおう権利とか存在するものだろうか?―」、二〇〇四年二月、『社会と倫理』第17号、一八一―一八九頁

- 15 ヨハネス・ボネリ著「医療現場からみた死の介添えと緩和医療」、二〇〇四年一二月、『社会と倫理』第17号、一九〇—一九五頁
- 16 エーベルハルト・シヨッケンホフ著「良心—倫理的判断能力ならびに人格的責任の源泉—」、二〇〇四年一二月、『社会と倫理』第17号、一九六—二〇七頁
- 17 ハンス・ヨアヒム・テュルク著「ジョン・ロールズの政治哲学とカトリック社会教説—ドイツにおける議論を中心に—」、二〇〇六年五月、『社会と倫理』第19号、一一—一七頁
- 18 ギュンター・ペルトナー著「尊厳の尊重と利益の保護」、二〇〇六年五月、『社会と倫理』第19号、一七五—一九六頁
- 19 ヨハネス・メスナー著「マルクス主義、新マルクス主義、キリスト教徒」、二〇〇七年六月、『社会と倫理』第21号、一五五—一六六頁
- 20 ローター・ロース著「主題は人間の尊厳—ヨハネ・パウロ二世の社会倫理上の遺産—」、二〇〇七年六月、『社会と倫理』第21号、一六六—一七七頁
- 21 ヨハネス・メスナー著「階級闘争か、それとも労使協調か」、二〇〇八年九月、『社会と倫理』第22号、一四七—一五七頁
- 22 ライナー・ヴァール著「1950年代のドイツ公法学の創成期」、二〇〇九年一〇月、『熊本法学』第118号、二七九—三〇六頁
- 23 アルトウル・ウッツ著『政治倫理学』（一）、二〇〇九年一〇月、『熊本法学』第118号、三〇七—三五三頁
- 24 ペーター・パウル・ミュラー・シユミット著「労働と余暇—新たな均衡を求めて—」、二〇〇九年一月、『社

- 会と倫理』第23号、八七―九八頁
- 25 アルトウル・ウッツ著『政治倫理学』(二)、二〇一〇年七月、『熊本法学』第120号、二七―六〇頁
- 26 クリストフ・ベール著「人間の尊厳の基準―キリスト教信仰、倫理的要請、政治的行為―」、二〇一〇年九月、『社会と倫理』第24号、二一七―二二八頁
- 27 アルトウル・ウッツ著『政治倫理学』(三)、二〇一〇年一月、『熊本法学』第121号、六五―八一頁
- 28 アルトウル・ウッツ著『政治倫理学』(四)、二〇一一年一月、『熊本法学』第124号、九四―一〇一頁
- 29 トーマス・ヴェルテンベルガー著「憲法の規範力」、二〇一二年八月、『熊本法学』第126号、一四三―一六二頁
- 30 ベルンハルト・ズートル著「民主主義におけるキリスト教徒―政治教育の課題と目標―」、二〇一二年一〇月、『社会と倫理』第27号、一六七―一七八頁
- 31 アルトウル・ウッツ著『政治倫理学』(五)、二〇一三年八月、『熊本法学』第128号、一一―一三九頁
- 32 アルトウル・ウッツ著『政治倫理学』(六)、二〇一三年一月、『熊本法学』第129号、一一―一頁
- 33 アルトウル・ウッツ著『政治倫理学』(七・完)、二〇一五年三月、『熊本法学』第133号、一二七―一四五頁
- 34 モーリッツ・ネストル著「政治は倫理に基づかねばならない―今は亡き敬愛するわが師アンネマリー・ブーフホルツⅡカイザーに捧げる―」、二〇一五年二月、『熊本法学』第135号、一三一―一四一頁
- 35 アルトウル・ウッツ著『倫理学』(二)、二〇一六年九月、『熊本法学』第137号、一一―二〇頁
- 36 アルトウル・ウッツ著『倫理学』(二)、二〇一八年一月、『熊本法学』第144号、一五九―一八六頁

【書評】

- 1 「アルトゥール・ウッツ著、島本美智男訳『経済社会の倫理』（晃洋書房、二〇〇二年）」、二〇〇三年九月、経済社会学会編『経済社会学会年報』XXV、現代書館、一八九—一九一頁
- 2 「松田純著『遺伝子技術の進展と人間の未来—ドイツイ生命環境倫理学に学ぶ—』（知泉書館、二〇〇五年）」、二〇〇五年七月、『社会と倫理』第18号、一四五—一五〇頁
- 3 「佐々木亘著『トマス・アクィナスの人間論—個としての人間の超越性—』（知泉書館、二〇〇五年）」、二〇〇五年九月、経済社会学会編『経済社会学会年報』XXVII、現代書館、二六一—二六三頁
- 4 「秋葉悦子訳著『ヴァチカン・アカデミーの生命倫理—ヒト胚の尊厳をめぐって—』（知泉書館、二〇〇五年）」、二〇〇六年五月、『社会と倫理』第19号、二〇二—二一一頁
- 5 J. Bonelli (Hsg.), *Der Mensch als Mitte und Maßstab der Medizin*, Wien 1992; J. Bonelli u. E. H. Prat (Hsg.), *Leben-Sterben-Euthanasie?*, Wien 2000; Günther Pöhlner, *Grundkurs Medizin-Ethik*, 2. Aufl., Wien 2006, 二〇〇九年七月、『熊本法学』第17号、七一—八一頁
- 6 *Hsiao KURUKI*, Beiträge zur Geschichte der deutschen Staatsrechtswissenschaft, Seibundo-Verlag Tokio 2009, 二〇〇九年10月、『熊本法学』第118号、三五五—三六七頁
- 7 「書評 高橋広次『アリストテレスの法思想—その根柢に在るもの』成文堂、二〇一六年」、二〇一八年三月、長谷川晃・酒匂一郎・河見誠編集『法の理論36』、成文堂、二六三—二八九頁
- 8 「佐々木亘著『トマス・アクィナスにおける法と正義—共同体の可能性をめぐって』」、二〇一九年九月、経済社会学会編『経済社会学会年報』41、現代書館、二二〇—二二二頁

その他

【寄稿、インタビューなど】

- 1 「メスナー『文化倫理学』案内」、一九九五年二月、『創文』No.371、七一九頁
- 2 学界展望「第四回ヨハネス・メスナー国際シンポジウムに参加して」、一九九八年三月、『社会と倫理』第5号、七四―八三頁
- 3 学界展望「第六回国際会議『倫理への勇氣』に参加して」、一九九九年七月、『社会と倫理』第7号、一一―一二八頁
- 4 「自然法…人間本性の当為存在条件としての法則」、二〇〇一年七月、『経営倫理』No.20、九―一〇頁
- 5 「シンポジウム開催に当たって」、二〇〇二年六月、『社会と倫理』第13号、八三―八六頁
- 6 「『家族と共同善原理』の報告を終えて」、二〇〇二年七月、『経済社会学会ニューズレター』32号、七頁
- 7 「私の研究関心…自然法―人間存在の基底的規定」、二〇〇三年七月、『経済社会学会ニューズレター』34号、六頁
- 8 「真正トミスト、トマス水波朗先生のご逝去を悼む」、二〇〇四年二月、『社会と倫理』第16号、八六―九三頁
- 9 「日本経営倫理学会の設立十周年記念に思うこと」、二〇〇四年五月、『日本経営倫理学会10年史』日本経営倫理学会、一三九―一四〇頁
- 10 「水波先生の想い出―学問と人柄―」、二〇〇四年七月、『創文』No.466、二二―二七頁
- 11 「伝統的自然法論の精華」、二〇〇六年三月、『経済社会学会ニューズレター』39号、七頁
- 12 「伝統的自然法論をめぐる私の研究と政治倫理学的考察」、二〇〇六年五月、『経営倫理』No.45、三一―四頁

- 13 学界報告「第8回ヨハネス・メスナー記念国際シンポジウム」、二〇〇八年四月、『時報 しゃりんけん』第1号、一四―一五頁
- 14 学界報告「IMABE-Institut 医療人類学及び生命倫理研究所 in ヴィーン」、二〇〇八年四月、『時報 しゃりんけん』第1号、二二―一四頁
- 15 「責任を考えるための十冊」、二〇〇八年四月、『時報 しゃりんけん』第1号、三六―三九頁
- 16 「熊本便り」、二〇〇九年八月、『時報 しゃりんけん』第2号、一〇―一頁
- 17 「巻頭言 古くて新しい自然法」、二〇一三年七月、『経済社会学会ニューズレター』第54号、一―二頁
- 18 用語集項目「自然法」、二〇一五年四月、経済社会学会編『経済社会学会キーワード集』、ミネルヴァ書房、一三五―一三八頁
- 19 Interview: „...in Richtung auf mehr Menschlichkeit zu führen.“ Interview mit Prof. Dr. jur. Hideshi Yamada. Interviewer: Joachim Höfele und Moritz Nestor. 二〇一五年二月、『熊本法学』第135号、一六〇―一七四頁（『人間と社会―自然法研究―』に所収）
- 20 「弁護士米倉正実氏へのお礼状」、二〇一七年一月、『社会と倫理』第32号、一一四―一一八頁
- 21 「第55回全国大会のご案内」、二〇一九年二月、『ニューズレター 65』、経済社会学会、三一―五頁
- 22 「第55回全国大会のご案内」、二〇一九年七月、『ニューズレター 66』、経済社会学会、三一―五頁
- 23 「第55回全国大会をふりかえって」、二〇二〇年二月、『ニューズレター 67』、経済社会学会、六頁
- 24 「第十二回熊本大学東光文学賞作品集の公刊に寄せて」、二〇二〇年三月、『第12回熊本大学東光文学賞作品集』、熊本大学附属図書館、四―八頁

25. 「大会実行委員長挨拶 経済社会学会第55回全国大会報告」二〇二〇年一〇月、経済社会学会編『経済社会学会年報』42、現代書館 三―四頁
26. 「第十三回熊本大学東光文学賞作品集の公刊に寄せて」二〇二一年三月、『第13回熊本大学東光文学賞作品集』、熊本大学附属図書館

【国際学会発表及び講演】

- ① „Rechtsphilosophische Betrachtungen über das Thema ‚Was verstehen wir unter Europa?‘“, gehalten im Rahmen des Symposiums „**Ausbau der Sozial-, Kultur- und Religionspolitik in der Europäischen Union und innerhalb eines größeren Europa**“ am 21. Februar 1995 im Bildungshaus in Wien, Österreich.
- ② „Gemeinwohl und Gerechtigkeit in der Entwicklung, auf der Suche nach einer integralen Lehre vom Menschen“, gehalten im Rahmen des 4. Johannes-Messner Symposiums „**Gerechtigkeit in der sozialen Ordnung: die Tugend der Gerechtigkeit im Zeitalter der Globalisierung**“ am 17. September 1997 in Brixen, Südtirol.
- ③ „Kultur als Gemeinwohl und Gemeinwohl als Kultur“, gehalten im Rahmen des VI. Kongress Mut zur Ethik zum Thema „**Bonum commune – Ethik in Gesellschaft und Politik**“ am 5. September 1998 in Feldkirch, Vorarlberg.
- ④ „Philosophische Überlegungen über die Menschenrechte“, gehalten im Rahmen des 5. internationalen Symposiums der Johannes-Messner Gesellschaft „**Völkerrechtsordnung und Völkerrechtsethik**“ am 27. September 1999 in Wien, Österreich.
- ⑤ „Für eine Kulturethik im 21. Jahrhundert“, gehalten im Rahmen des 6. Internationalen Johannes-Messner Symposiums

- ⑥ **„Wirtschaften- ein sittliches Gebot im Verständnis von Johannes Messner“** am 22. September 2001 in Wien, Österreich.
- ⑥ **„Rechtsethik von Krieg und Frieden im Blick auf Pacem in Terris“**, gehalten im Rahmen der Enquete 2003 **„Sicherheit und Friede als europäische Herausforderung“**, der Beitrag christlicher Soldaten im Licht von Pacem in Terris am 15. Oktober 2003 im Jakob Kern-Haus, 1130 Wien, Fasangartengasse 101/V, Österreich.
- ⑦ **„Mensch und Naturrecht in Entwicklung aus Sicht eines japanischen Naturrechtlers“**, gehalten im Rahmen des 8. internationalen Symposiums der Johannes-Messner Gesellschaft **„Mensch und Naturrecht in Evolution“** am 22. September 2007 in Mödling bei Wien, Österreich.
- ⑧ **„Die Verfassung und die Gewaltenteilung“**, gehalten im Rahmen des jährlichen Diskussionsforums Mut zur Ethik zum Thema **„Die Würde des Menschen zuerst“** am 2. September 2011 in der Ostschweiz.
- ⑨ **„... in Richtung auf mehr Menschlichkeit zu führen.“**, Prof. Dr. jur. Hideshi Yamada im Gespräch mit Joachim Höfeler und Moritz Nestor, den 6. September 2011 im Gasthaus Sternen, Fischingen TG.
- ⑩ **„Der Mensch als Familienwesen in der Naturrechtslehre und in der personalen Psychologie, in tiefer Verbundenheit und zum Gedenken an Frau Dr. Annemarie Buchholz-Kaiser gewidmet“**, gehalten im Rahmen des jährlichen Diskussionsforums Mut zur Ethik zum Thema **„Mehr soziale Verbundenheit leben“** am 29. August 2014 in der Ostschweiz. (『人間と社会—自然法研究—』に所収)
- ⑪ **„Würdigung und Schutz der Familie in besonderer Berücksichtigung auf Ehe, Kind und Erziehung – ein Beitrag zur Förderung des Bonnum Commune gegen die globale sexuelle Revolution“**, gehalten in den Septemborgesprächen im

- Rahmen von *Europäischer Arbeitsgemeinschaft* Mut zur Ethik zum Thema „**Im gleichwertigen Dialog das Bonum Commune stärken – Eintreten für Rechtsstaatlichkeit, Völkerrecht und Demokratie**“ am 1. September 2017 in Sirmach, Ostschweiz.
- ⑫ Vortrag über „Die Geschichte von Japan und das Verhältnis zwischen Japan und Korea“, gehalten anlässlich des japanischen Abends am 3. September 2017 in Bazenheid, Ostschweiz.
- ⑬ Vortrag über „Das Naturrecht und die Eigenart der japanischen Mentalität und Philosophie“, gehalten anlässlich des japanischen Abends am 4. September 2017 in Sirmach, Ostschweiz.
- ⑭ Vortrag über „Die Gegenwart von Japan“, gehalten anlässlich des japanischen Abends am 29. August 2018 in Sirmach, Ostschweiz.
- ⑮ „Einige Gedanken zum Thema „Rechtlichkeit stärken“ gehalten in den Septembergesprächen im Rahmen von *Europäischer Arbeitsgemeinschaft* Mut zur Ethik zum Thema „**Gewissen bilden, Rechtlichkeit stärken, Frieden fördern – Wie weiter in Zeiten des Umbruchs?**“ am 31. August 2018 in Sirmach, Ostschweiz. (『人間と社会―自然法研究―』に所収)
- ⑯ Vortrag über „Die politische Lage der Gegenwart Japans in besonderer Berücksichtigung von USA“, gehalten anlässlich des japanischen Abends am 3. September 2018 in Sirmach, Ostschweiz.
- 【国内学会・研究会発表及び講演】
- ① 「自然法と共同善」一九九六年一月八日（日本法哲学学会学術大会、於明治大学）

- ② 「教育・共同善・自然法——林竹二博士とその周辺」一九九九年五月十五日（第18回愛知法理研究会）
- ③ 「家族と共同善原理」二〇〇二年五月一八日（経済社会学会東西合同研究会、於名古屋学院大学さかえサテライト）
- ④ 「共同善—伝統的自然法論におけるその概念と機能をめぐって—」二〇〇三年九月二〇日（経済社会学会第39回全国大会、於同朋大学）
- ⑤ 「伝統的自然法論における社会倫理学と共同善」二〇〇三年一〇月四日（第31回愛知法理研究会）
- ⑥ 「伝統的自然法論の精華—ヨハネス・メスナー晩年の著作から—」二〇〇五年一二月一七日（経済社会学会西部部会研究会、於神戸学院大学）
- ⑦ 「メスナー自然法思想の基本特徴について」二〇〇六年三月一八日（九州法理論研究会、於九州大学）
- ⑧ 「メスナー自然法思想の基本特徴」二〇〇六年七月一日（九州法学会第111回学術大会、於佐賀大学）
- ⑨ 「カトリシズムの補完性原理とアメリカの原理主義」二〇〇六年一〇月一四日（公共哲学京都フォーラム、於リーガロイヤルホテル）
- ⑩ 「伝統的自然法論について」二〇一四年九月二〇日（経済社会学会第50回全国大会、於流通経済大学）
- ⑪ 「「幸福の経済社会学」を考えるために」二〇一五年九月二六日（経済社会学会第51回全国大会、共通論題「幸福の経済社会学」報告、於京都学園大学）
- ⑫ 「人間的実存における幸福傾動—メスナーの実存的自然法論に依拠して—」二〇一六年九月二四日（第21回「九州法理論研究会」於九州大学箱崎キャンパス文系地区法学研究院（法学部）大会議室（2F））
- ⑬ 「共同善と補完性原理—伝統的自然法論の立場から—」二〇一九年七月一日（木）（2019年度第2回「社会

倫理研究所補完性研究会」於南山大学J棟地下一階社会倫理研究所長室（ベースラボ）」

- ⑭ 「ラウンドテーブル「現代日本の自然法論」第3報告「トミスト、一連のテーゼを読解する」」二〇二〇年一月一日（経済社会学会第56回全国大会、共通論題「成長・連帯・持続可能性——豊かさの再考から」報告、於文教学院大学本郷キャンパス）

- ⑮ 「自然法と私—我が半生を反省する—」二〇二〇年一月二十六日（第16回「知の技法の伝承」研究会、於熊本大学法学研究院（法学部）A1教室（2F））

【研究所訪問】

- 1 カトリック社会科学中央研究所（KSZ: Abk. v. Katholische Sozialwissenschaftliche Zentralstelle zu Mönchengladbach）訪問（一九九七年九月二三日）
- 2 医療人類学及び生命倫理研究所（MABE-Institut: Abk. v. Institut für die medizinische Anthropologie und Bioethik in Wien）訪問（二〇〇一年九月二四日）

表彰

【叙勲】

オーストリア芸術芸術功労十字賞（Das österreichische Ehrenkreuz für Wissenschaft und Kunst, 3. Juli 1998）〔同年一月一日駐日墺大使館にて授与式が執り行われる。〕

【受賞】

ヨハネス・メスナー賞 (DIE „JOHANNES MESSNER MEDAILLE“)。[22. September 2007 in Sankt Gabriel, Mödling bei Wien. 九月二二日ヴェーン郊外メードリング、サンクト・ガブリエルにてキリスト教中高等学校職業訓練学校教職員組合より授与される。]